交換留学帰国報告書

記入｜2025 年 1 月
所属＆学年｜環境学研究科　修士 1 年
卒業予定｜2026 年 3 月

留学先大学	西オーストラリア大学
留学先国	オーストラリア（パース）
留学期間	約 10 ヶ月　（修士 1 年次に留学）
留学開始－終了	2024 年　2 月　16 日　－　2024 年　12 月　13 日

A．留学に至った経緯や留学準備について

①留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

日本よりも都市分野について先進的に学ぶことができるため。また、先住民や多民族の共生についても学ぶことができ、まちづくりについて考えるのに良い大学であったため。

②留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

日本の大学で建築や都市計画について学ぶのは、名古屋大学以外の大学であっても建築士受験要件を満たすための基準法中心のカリキュラムであり、それ以外の住民に根差したまちづくり・都市計画について深く学びたかったため。

③留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的＆期間など
ドイツ	高校 2 年	交換留学（1 年間）
カナダ（トロント）	高校 3 年	ホームステイ（2 ヶ月）
カナダ（バンクーバー）	中学 2 年	ブリティッシュコロンビア大学のサマースクールへの参加（1 ヶ月）
フランス/イギリス/ドイツ/スペイン	修士 1 年	国際ワークショップへの参加（1 ヶ月）

④実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

応募の２ヶ月前

⑤海外留学室での相談内容、参考になったことなどを教えてください。

渡航先の検討

B．留学前の語学対策や単位などについて

①留学前の語学対策、TOEFL などの受験回数などについて教えてください。

名古屋大学主催で夏休みに開催された IELTS 講座

②単位取得、単位互換、教職履修などに関してのアドバイスをお願いします。

渡航前に修士論文以外の全ての単位を履修していたため、単位については何も考えずに留学ができた。修士課程は 1 年間で卒業単位を取得することが可能であるため、M1 時の派遣であれば、留学中に修論執筆のための研究材料集めをすることで、学年を落とさずに修了することも可能。

C. 授業や勉強について

①留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG 2022 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えて下さい。

LACH1010 History & Theory of Landscape Architecture (6 Credit)
PACM1100 Professional and Academic Communication (6 Credit)
URBD1000 Introduction to Urban Design (6 Credit)
ASIA2002 Australia and Asia (6 Credit)
COMM1002 Cultures, New Media & Communication (6 Credit)
GEOG1104 Disasters! (6 Credit)

授業は講義編と演習編（チュートリアルや実験）の組み合わせで構成されており、基本的に 6 Credit が週 3 時間の配分となる。講義は対面だが、対面講義がそのまま録音されて配信されるため、後日見返すことができる。演習編ではグループ活動が主で、課題も個人課題に加えて、グループで調査・検討して発表するものも多くある。また、各授業に課題図書のようなものが設定されており、演習編でこれらの内容について言及して討論をするため、参加する前に読了しておく必要がある。加えて、シラバスに書かれている科目であっても、留学年には開講なしも多くあり、当初の予定通りには受講できない可能性もある（私の場合は３科目が開講なしであった）。

②授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫を教えてください。

言語面ではどうしてもハンディキャップがあるため、各授業で設定された課題図書を読んでから参加することで予習をしていた。

③学習面で困ったことはありましたか。どのように解決しましたか。

課題を行うにあたって大学側から学生に対して数多くの有料ソフトが無償提供されており、どれも初めて使うものばかりであったため、授業以外にもソフトの使い方を学ぶためのワークショップに参加していた。

D．大学生活について教えてください。

①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

講義は出欠を取らない上に、後日オンライン上で見ることができるため、初回講義には多くの学生が参加するも、中盤以降は履修登録 50 人の講義に対して 3～４人で対面講義を聞くことも少なくなかった。また、大学の敷地に語学学校があることもあり、日本の長期休みの時期には大学敷地内が日本人で溢れ、留学中とは思えないほど大学ですれ違う人の言葉がみな日本語であった。

②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

大学全体に Wi-Fi が設置されており、図書館では多くの学生が大学のデスクトップを使用して課題を行っていた。また、建築系の図書館には大型のプリンターやレーザーカッター、３d プリンターもある。

③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか。

学生寮に入っていたため、食堂で食事中に交流の輪を広げていった。また、日本文化研究会にも所属したため、日本文化に興味のある学生たちと繋がることができた。

④余暇の過ごし方（授業後や長期休暇など）について教えてください。

授業後は寮の友人同士で図書館に集まり課題や試験勉強をしていた。また、定期的に大学のギルド（クラブ）主催のお祭りが開催されるため、遊びに行ったりもした。長期休暇中はほとんどの学生が地元に帰ってしまったため、私はオーストラリアの東海岸側とニュージーランドを１ヶ月旅行して過ごしていた。

Ｅ．健康管理、保険、予防接種など

①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか。

寮の公共スペースは平日毎日清掃が入るため基本的には清潔である。しかし、留学生が半分を占めており、それぞれ異なる生活習慣や感覚を持っているため、キッチンやバスルームを汚れたままにして後に管理人から怒られる人もいた。個人部屋も週に一度清掃が入るため、よほどのことがない限り、清潔は保たれると思う。ただ、オーストラリアの建物はどれも窓や扉の密閉度が日本よりも低く、扉下や噛み合わせの部分に隙間があるのが普通なので、小さな虫が部屋に入ってくるのは当たり前の光景である。オーストラリア人は虫と一緒に生活するのだよと言っていた。
健康面については寮で１日３食提供されるため、最低限の栄養は補うことができる。しかし、どうしても食材に偏りがあるため、足りない栄養に関してはサプリメントで補っていた。

②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えて下さい。

パースに到着した翌日から目が開けられないくらい顔が腫れ、水脹れが大量にできた状態になった。すぐに病院に行き薬を処方してもらったが、それからも４回ほど病院に通うことになり、留学中は皮膚薬が欠かせなかった。診断は紫外線による火傷のような症状であり、パースは日本の８倍紫外線量があるため、皮膚が弱い人は注意が必要。日中は夏であっても長袖長ズボンで過ごし、帽子をかぶっていた。医療費上限なしの海外旅行保険に加入していたため、病院での診察後に支払いなしですぐ薬をもらうことができた。

③留学するにあたって、予防接種は必要でしたか。

☐はい（種類：）
☒いいえ

Ｆ.住居、食事、マナーなどについて

①留学中の滞在先について教えてください。

形態	☒寮　☐下宿　☐アパート　☐ホームステイ　☐その他（　　）
何人部屋	（　１　）人

②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

寮の食事はビュッフェスタイルであるため、自分の食べたいものを選ぶことができ、そこまで苦労はしなかった。ただ、クラブに行く習慣のあるヨーロッパ人たちが夜中に寮に帰ってきた時に酔っ払った状態で廊下や外で大声で騒ぎ、眠れないと苦情が入ることもあった。一応寮にも静かにする時間（22 時～７時）があったが、アジア人が多いフロアは静かであるものの、ヨーロッパ人が多いフロアではあまり機能していないようだった。パースの街自体の治安は良く、日本みたいにカフェの席取りのために荷物をテーブルに置いて注文をしている人も多くいた。

③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

オーストラリアは多くの日本人が住んでいることもあり、アジアンスーパーにわざわざ出向かなくでも、その辺のスーパーや大学内のスーパーにも日本のものは多く売っている。ダイソーもあり、日本生活で使っているようなものは大概入手することが可能。また、パース自体は冬もそこまで気温が低くならないため、ニットやヒートテック、ダウンジャケットを着ることはなかった。ただ、長期休暇中（冬休み）に東海岸やニュージーランドに行こうと思っているのであれば、気温が 0~5 度の地域になるため、それなりの防寒具を持っていったほうがいいと思う。

④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

寮についての情報は、西オーストラリア大学留学経験者の note でコメントをして教えてもらった。また、パースについての情報を日本語で発信している Instagram アカウントもある。

G.留学費用について

①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

パース留学中も、他都市旅行中も現金でなければダメという場面には遭遇しなかった。留学中の寮費も留学前に全額支払っていたため、現地での支出は大学で使用する文具や交際費、交通費、娯楽費くらいであった。これらを Excel で月毎に支出管理していた。

②奨学金は受給していましたか。

☒はい　（奨学金名：　JASSO　支給額：　月 70,000 円と渡航準備金 160,000 円）
(奨学金名：名古屋大学海外留学奨励制度　支給額：　200,000 円)

☐いいえ

③差し支えない範囲で留学費用を教えてください。*内容の費目は自由に変えてください。

内容	金額	備考
渡航費	200,000 円	名古屋大学海外留学奨励制度を利用。
保険代	300,000 円	海外旅行保険に 200,000 円ほど。それとは別に、学生ビザでの入国に必要な大学指定の保険が 100,000 円ほど。
ビザ代	70,000 円	2024 年 7 月から 160,000 円くらいに値上がりした。
住居費	2,000,000 円/年	大学が管轄する 5 つの学生寮ではどこも新入生は基本的に一番安い部屋に当てられるが、寮によって部屋の備品や食事の回数が異なるため自分に合った寮を選択するように。私の住んでいた Trinity Residential College は 2 番目に安い寮で食事が週 21 食つき、全室に日本製のエアコンが完備。留学生とオージーの比率が 50%。また、周辺の観光スポットへの旅行料金も含まれている。 一番安い Uni Hall は留学生比率が一番高く、食事は週 14 食ほど。多くの新入生に当てられる個室にはエアコンがなく、40 度を超えるような猛暑日には寝苦しくて寝れないという声をよく聞いた。しかし大学から一番

		近い立地は魅力的である。 中間価格の St Thomas More College にも扇風機しか無い部屋があるらしく、食事も 16 食くらいである。 高価格帯の St Catherine's College と St George's College はどちらも全室冷暖房完備であるが、やはり食事は全食ではない。St Catherine's College はオージー御用達の寮で、オーストラリア人の割合がとても高い。St George's College は勉強にも力を入れており、寮生一人一人にチューターがつき、勉強タイムなるものがある徹底ぶりである。 2024 年の寮の申し込みでは Uni Hall を除き、４つの寮で寮長とオンラインでの面接があった。また、寮費も事前一括と月払いの選択ができたが、円安の影響を受けて留学当初の 1 豪ドル 98 円からピークには 120 円にまで値上がりしたため、支払い方法によって値段が大きく変わる可能性あり。
食費	0	私の寮は全食食事付きであったため、わざわざ外食をしない限りは食費を払わずに生活できた。
教科書代	0	講義資料は全てオンラインで配布され、課題図書も e-Book で読めるようになっていた。

H.今後の進路や目標、就職活動について

①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

☐進学
☒就職
☐その他（　）

②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

留学中に良い都市デザインを多く目にし、自分で体感した機会が多くあり、日本にも導入できたらいいなと思うこともあった。そのため、就職先としてもやはり都市デザインに関われる仕事がしたいというビジョンが見えた。

③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報もお願いします。

会社説明会やオープンカンパニー、ワークショップをオンラインで行う企業は多くあるため、オンライン開催のものについては参加していた。また、西オーストラリア大学でも月１回くらいの頻度で留学生向けの就活フェアを開催していた。

I.留学を終えて感じること

①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

今回の留学では名古屋大学で学んだことを基礎にしつつも、違うフィールドに踏み込んだ学問であったため、新たな情報や街の見方について知見を得ることができた。この留学で学んだことを作品として日本のコンペに提出し、予選を突破できたことからも成果が出ていると実感する。また、先住民と入植者間の問題や、入植者自身のアイデンティティ問題といった社会的な面も学び、考えることができたのは、多文化社会であるオーストラリアへの留学ならではであると思う。これらは今後のキャリアに結びつく貴重な礎になった。

②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか。

自分の経験してきたものが皆の常識ではないのだと実感した。もともと他の様々な国への留学経験はあったものの、オーストラリアは今までの他国と比にならないほどに国の社会的背景を日常から感じるような場面に多く遭遇した。そのような中で、思考停止をせずに自分の頭で考え抜く力は向上したと思う。

③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

英語圏にしろ他言語圏にしろ、言語学習以外の目的・目標を持つべきだと思います。以前ドイツ留学した際はドイツ語を一切知らないまま現地校に派遣されてドイツ語で授業を受けていましたが、最終的にはドイツ語を話せるようになっていましたし、どうにかなります。大学での生活も基本的には日本とそう大きく変わることはないため、この国だからこそ、この大学だからこその魅力や意義を見出せることが留学で多くを得られる鍵であると思います。留学中は多かれ少なかれ苦労することはありますが、その分得られることも多いと思うので、興味があるのであれば一度チャレンジしてみるべきだと思います。

◆自由記述欄◆

左：長期休暇中の旅行先でできた友人たちと
右：前期成績優秀者として友人と一緒に表彰された

寮で月に一度開催されるフォーマルディナー